

拡大するスペイン養豚産業の現状

平成28年8月26日(金)
(独)農畜産業振興機構
調査情報部 大内田一弘

本資料の構成

1. スペインの概要
2. 日本におけるスペイン産豚肉
3. スペインの養豚
4. スペインの豚肉輸出の現状と今後
5. まとめ

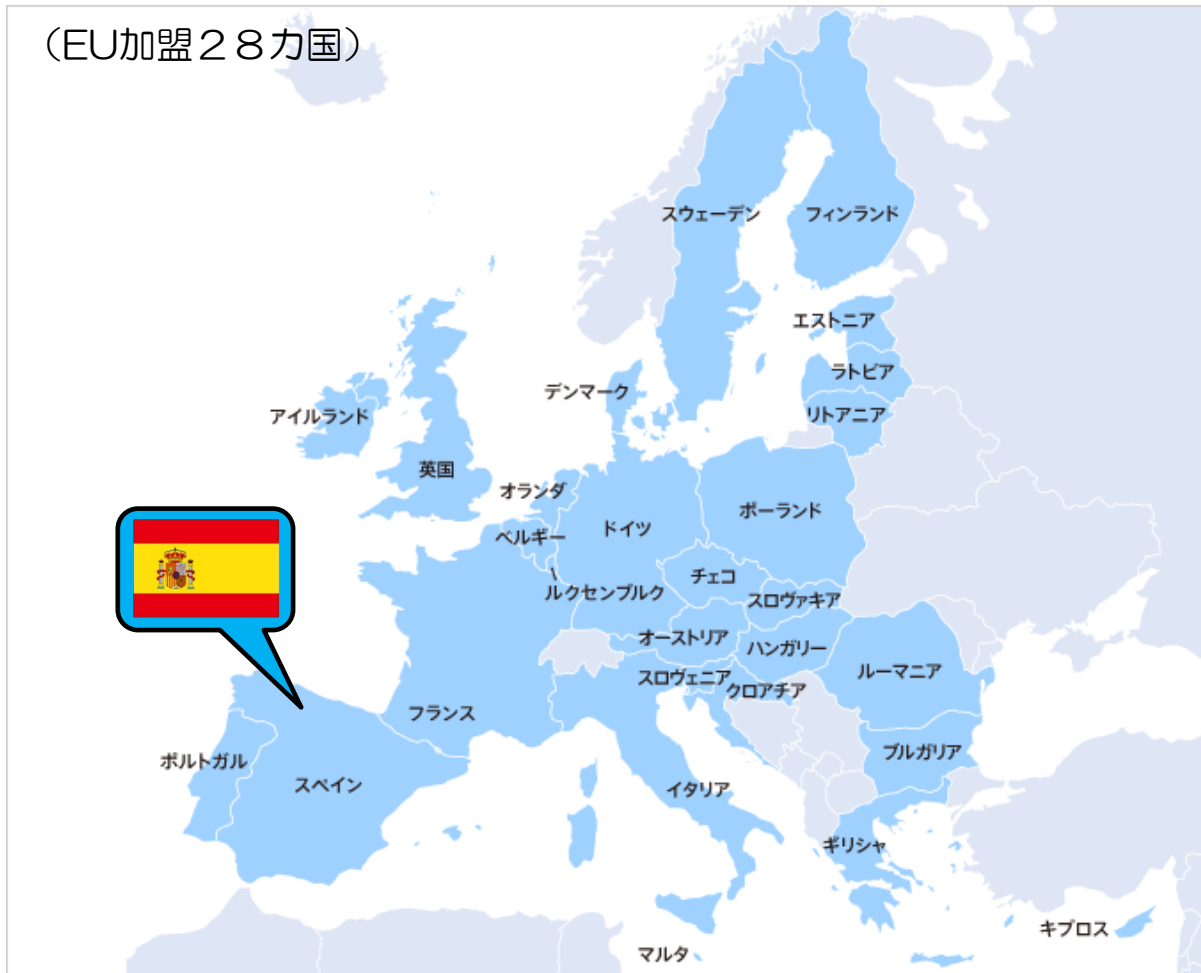
- ◇ この資料は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。
- ◇ この資料の正確性の確認等は、各個人の判断でお願いします。
- ◇ 提供した情報の利用に関して、万一、不利益を被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。

1 スペインの概要



スペインの概要 ①

(EU加盟28カ国)



人口：約4,644万人（2016年）
面積：5,056万ha
（日本の約1.3倍）

- ・ 農業生産額は仏、独、伊に次ぐEU第4位
- ・ 農用地面積は2,696万ha（日本の約6倍）
- ・ 主要農畜産物は、ぶどう、オリーブ（生産量世界第1位）、柑橘類、豚肉など
- ・ 主要輸出品目は、オリーブオイル（輸出額世界第1位）、ワイン（同3位）、豚肉（同4位）など

スペインの概要 ②

日・スペインの貿易概況（2015年）

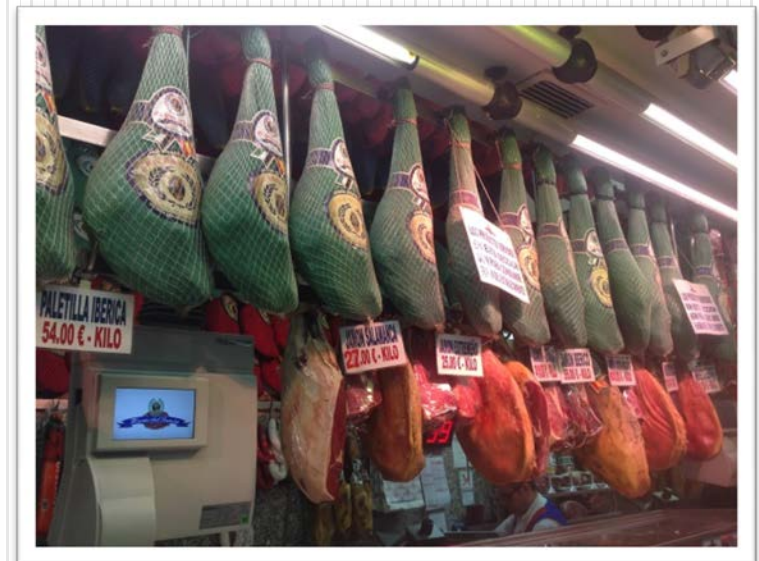
	輸出 (スペイン→日本)	輸入 (日本→スペイン)
総額（億円） a	4,431	2,865
農林水産物（億円） b	1,026	8.5
農林水産物の割合（b/a）	23%	0.3%

農林水産物の主要輸出品目（スペイン→日本）（2015年）

品目名	輸入額（億円）	シェア
豚肉	395	38%
オリーブオイル	175	17%
アルコール飲料	133	13%
かつお・まぐろ類	83	8%
トマトピューレー・ペースト	15	2%
総額	1,026	100%

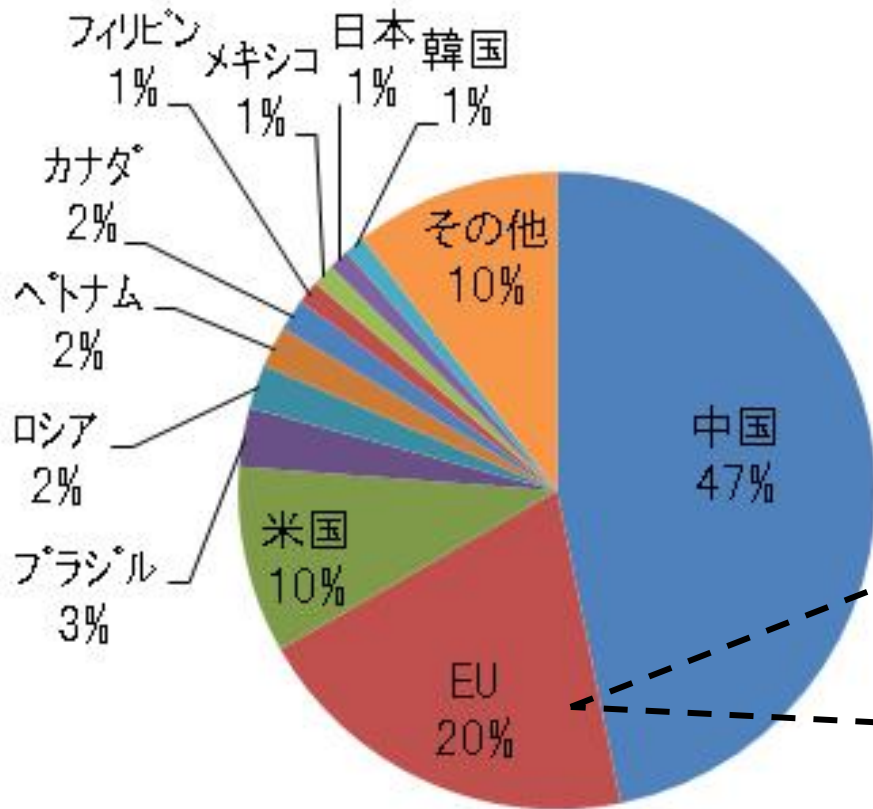
資料：財務省「貿易統計」

2 日本におけるスペイン産豚肉



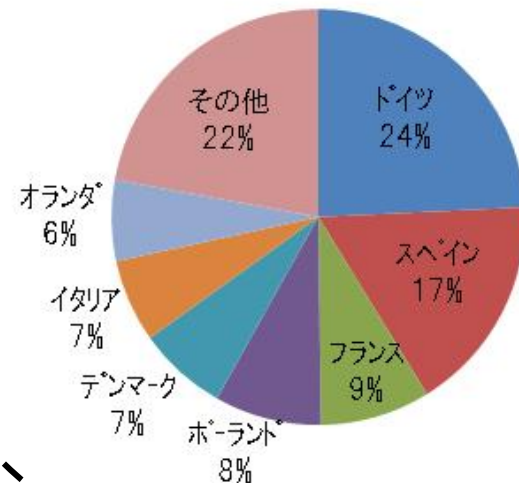
スペインの養豚産業の位置（2015年）

世界の豚肉生産割合



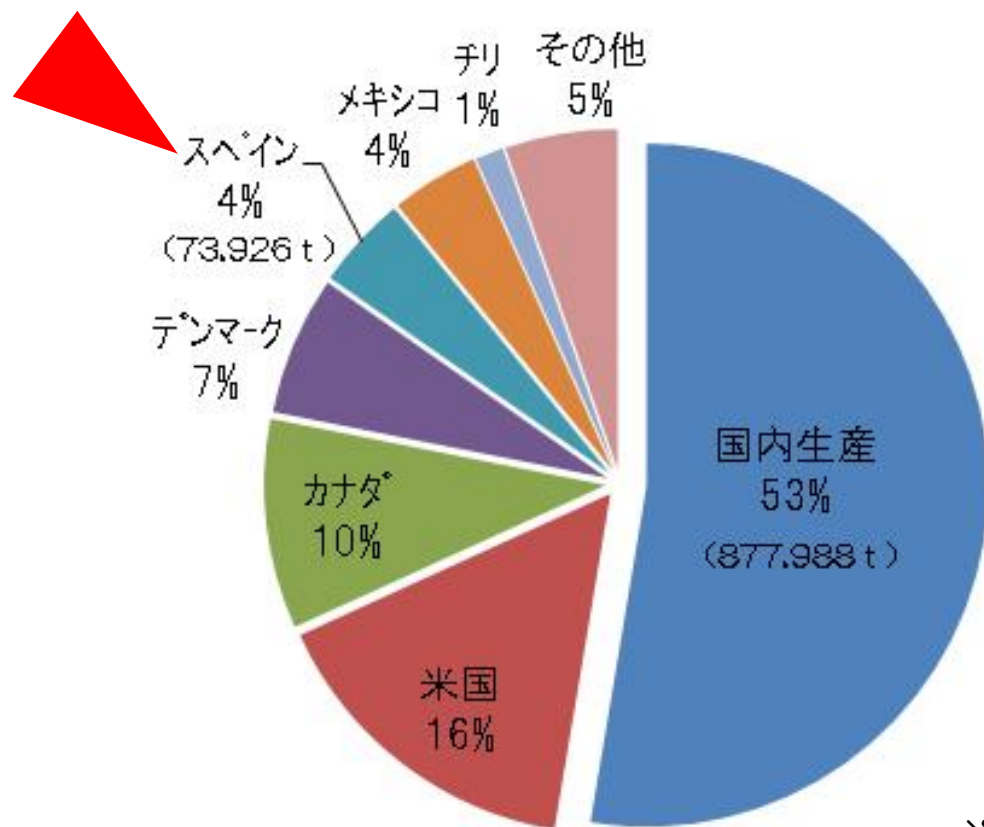
資料：FAO

EUの豚肉生産割合



資料：EUROSTAT

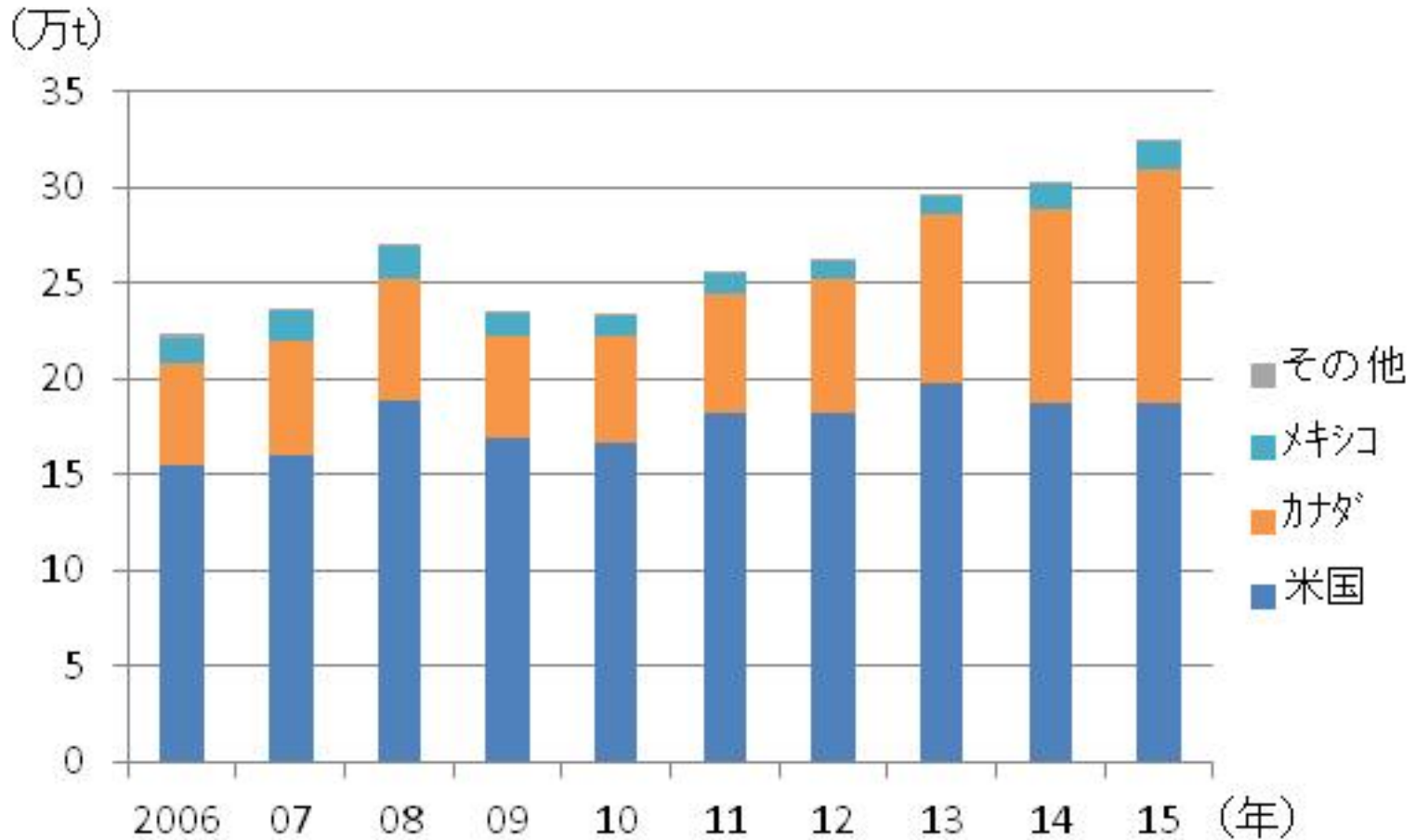
日本における豚肉供給（2015年）



※日本の豚肉輸出量：463t

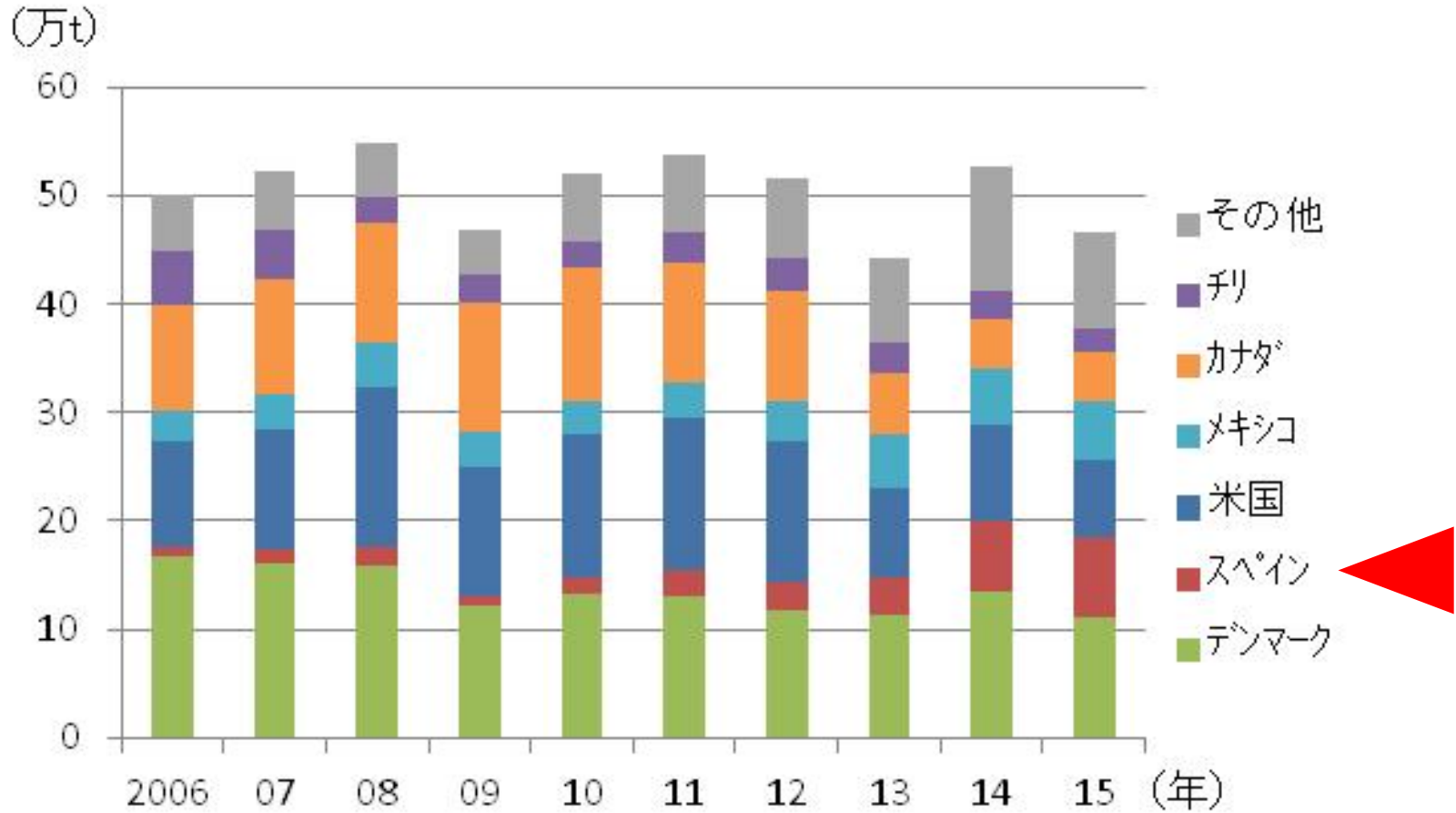
資料：財務省「貿易統計」、農林水産省「食肉流通統計」

輸入先国の変遷（冷蔵）



資料：財務省「貿易統計」

輸入先国の変遷（冷凍）

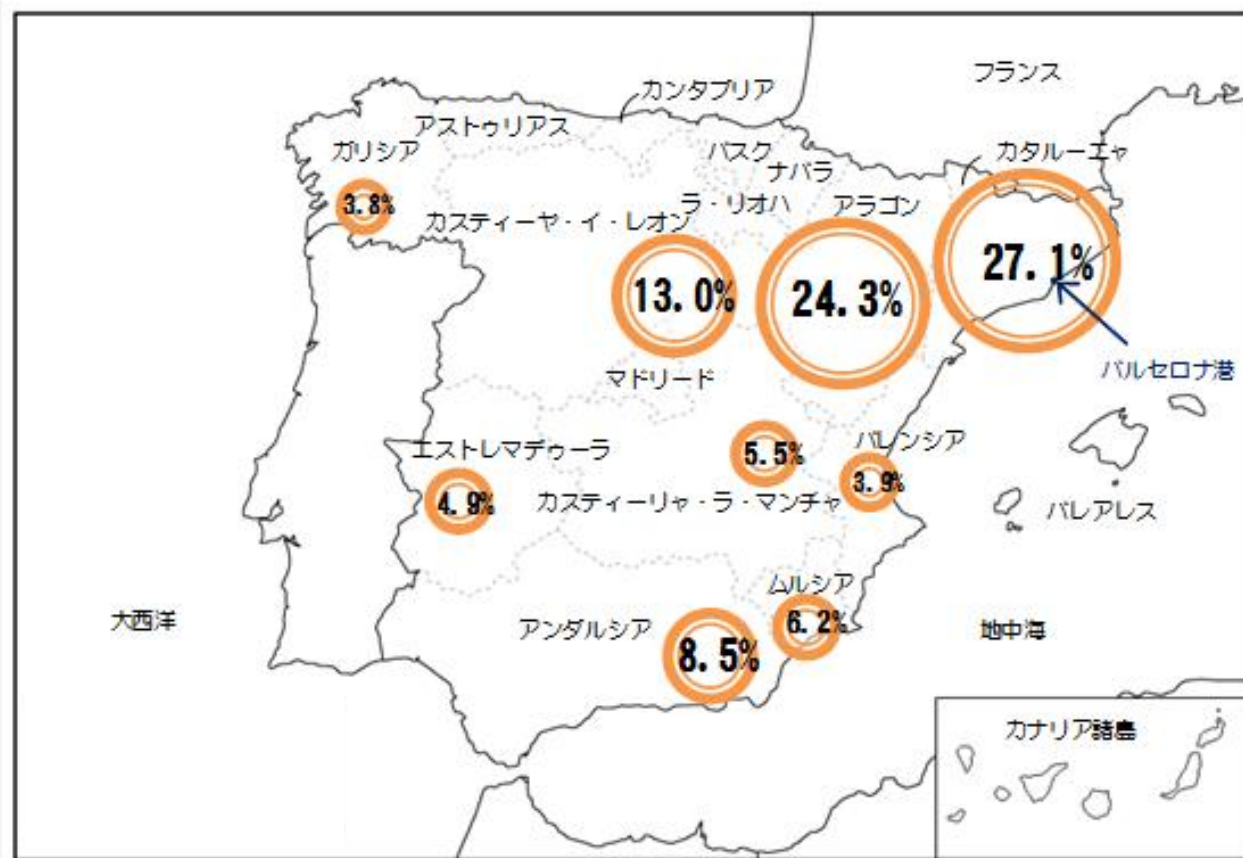


資料：財務省「貿易統計」

3 スペインの養豚



主要州別の飼養頭数割合分布図（2015年）



資料：スペイン農林食料環境省（MAGRAMA）の統計をもとに機構作成。

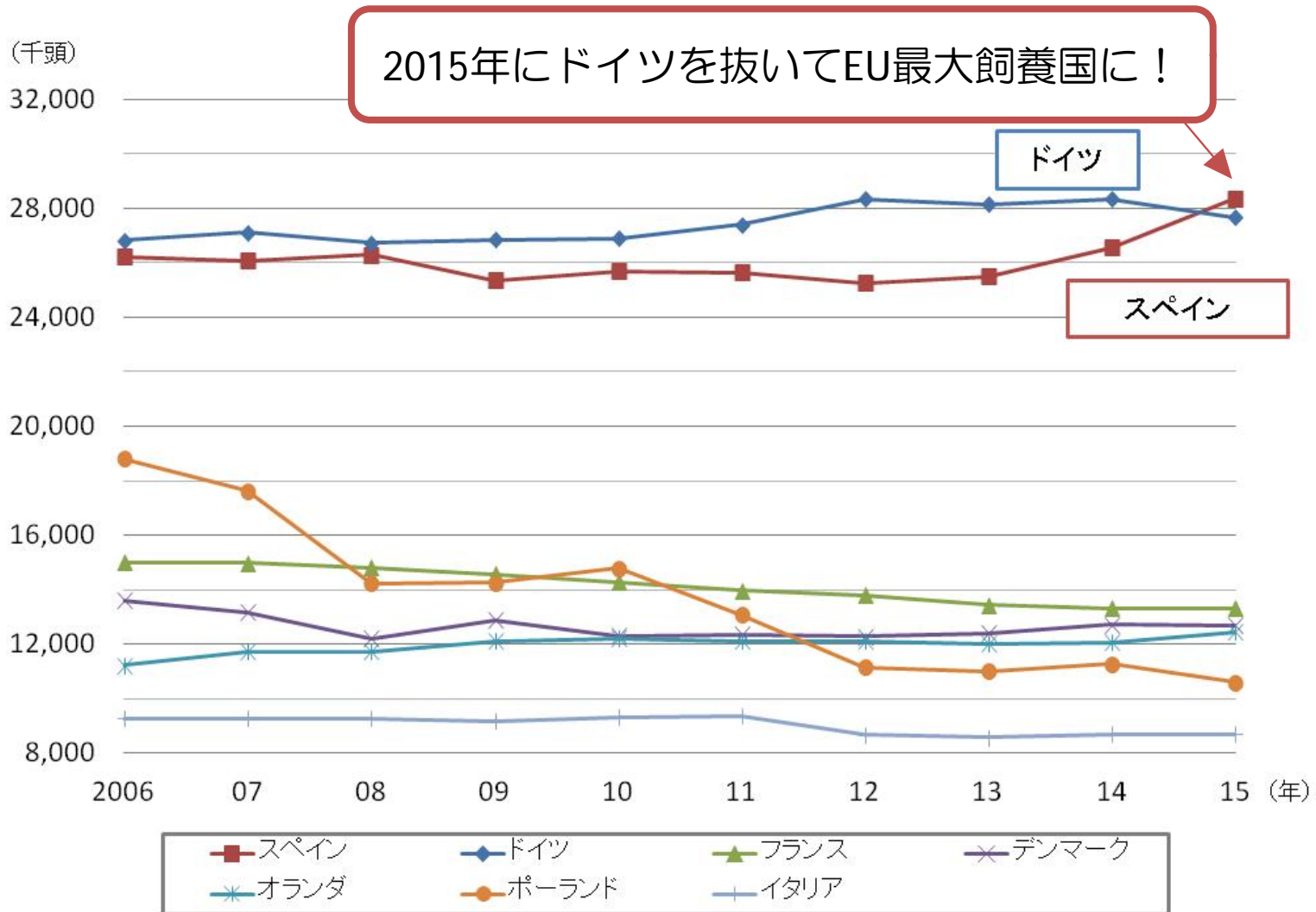
豚飼養頭数および養豚生産者戸数の推移



資料：欧州委員会

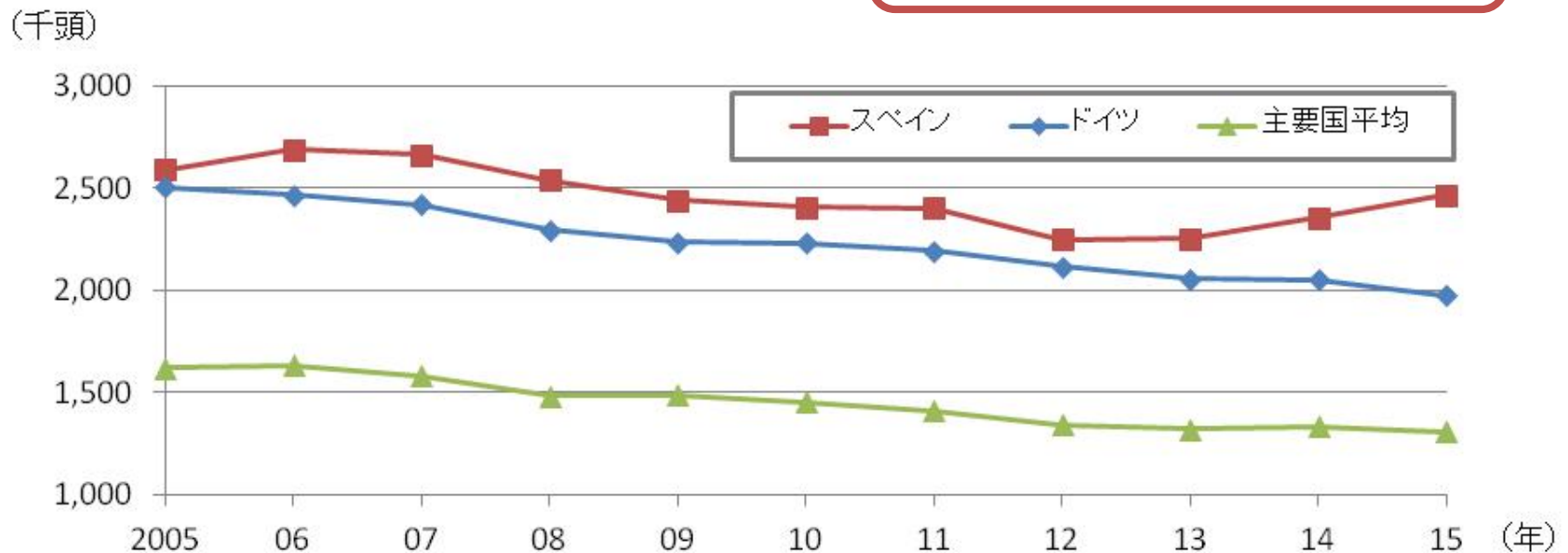
注：生産者戸数は公表のある年のみ。

EU主要国の飼養頭数の推移



EU主要国の母豚飼養頭数の推移

他の主要国とは異なる動き

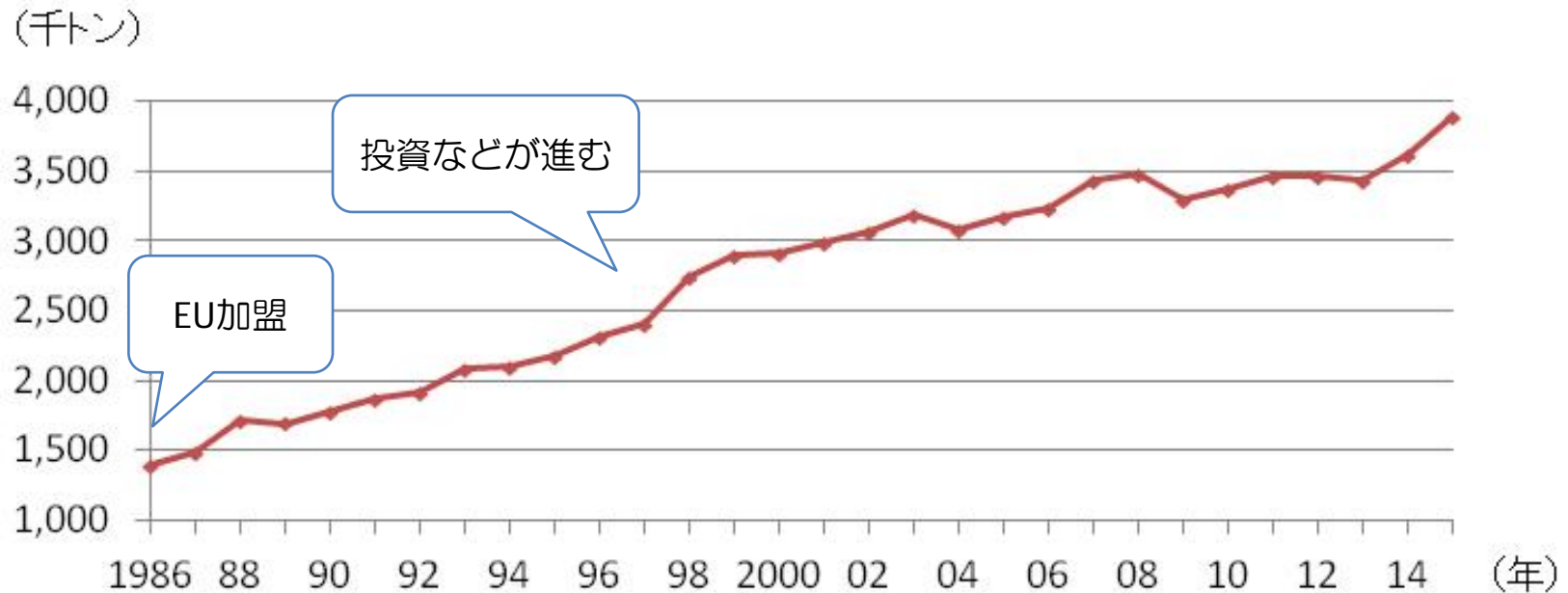


資料：欧州委員会

注：主要国平均は、豚飼養頭数上位7カ国(スペイン、ドイツ、フランス、デンマーク、オランダ、ポーランド、イタリア)の平均。

豚肉生産量の推移

- ・ 9割弱が三元豚（主にLWD）
- ・ 約4割が輸出向け



資料：欧州委員会
注：枝肉換算ベース

- ※イベリコ豚
- ・ 飼養頭数は全体の10.8%（2015年）
- ・ エストレマデゥーラ州中心

増加要因① インテグレーションの進展

(背景)

- 2008年：リーマンショックに端を発する世界的な景気後退
- 2012年：スペイン経済危機
- 2013年：アニマルウェルフェアに関する規制強化



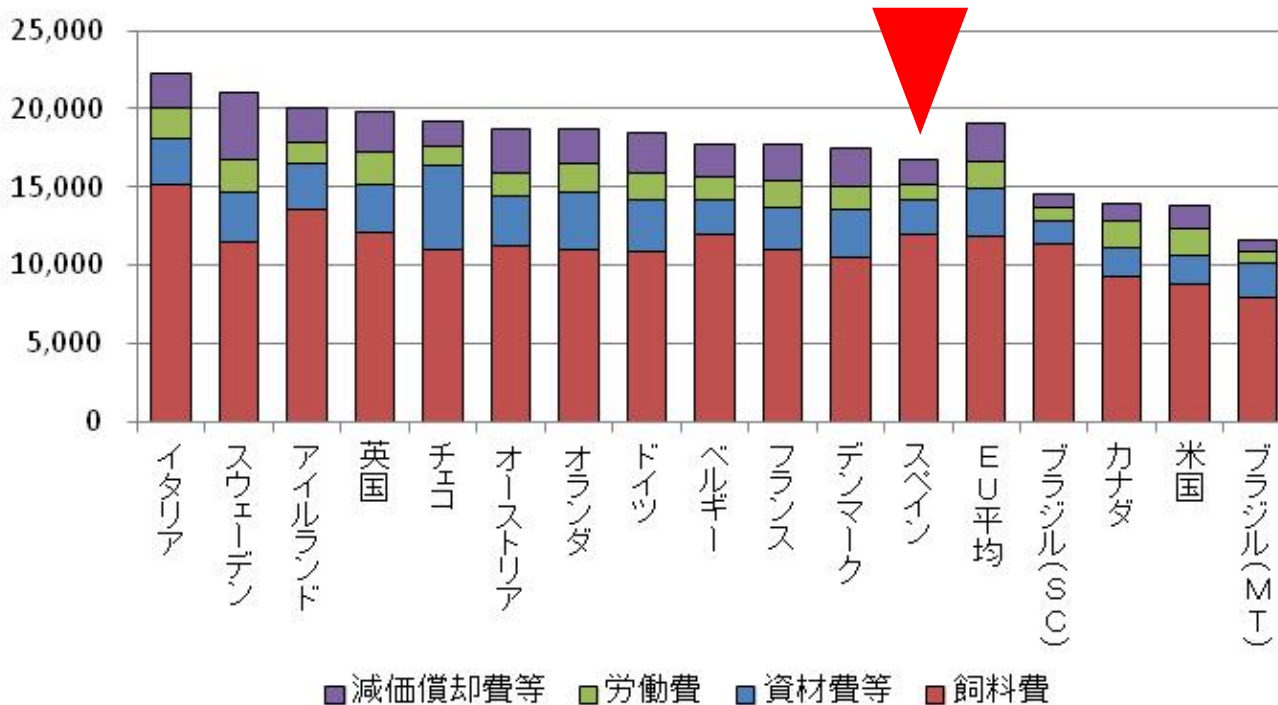
(インテグレーション（垂直統合）の進展)

- 小規模生産者の経営中止、生産部門の統廃合
- 大規模経営体が、生産部門から流通、販売部門までを一体化、効率化
- 生産性向上による生産拡大、さらなる投資も

増加要因② 低い生産コスト

- ・低い人件費
- ・規模拡大によるスケールメリット

(円/枝肉100キログラム)



資料：AHDB「2014 Pig Cost of Production in Selected Countries」

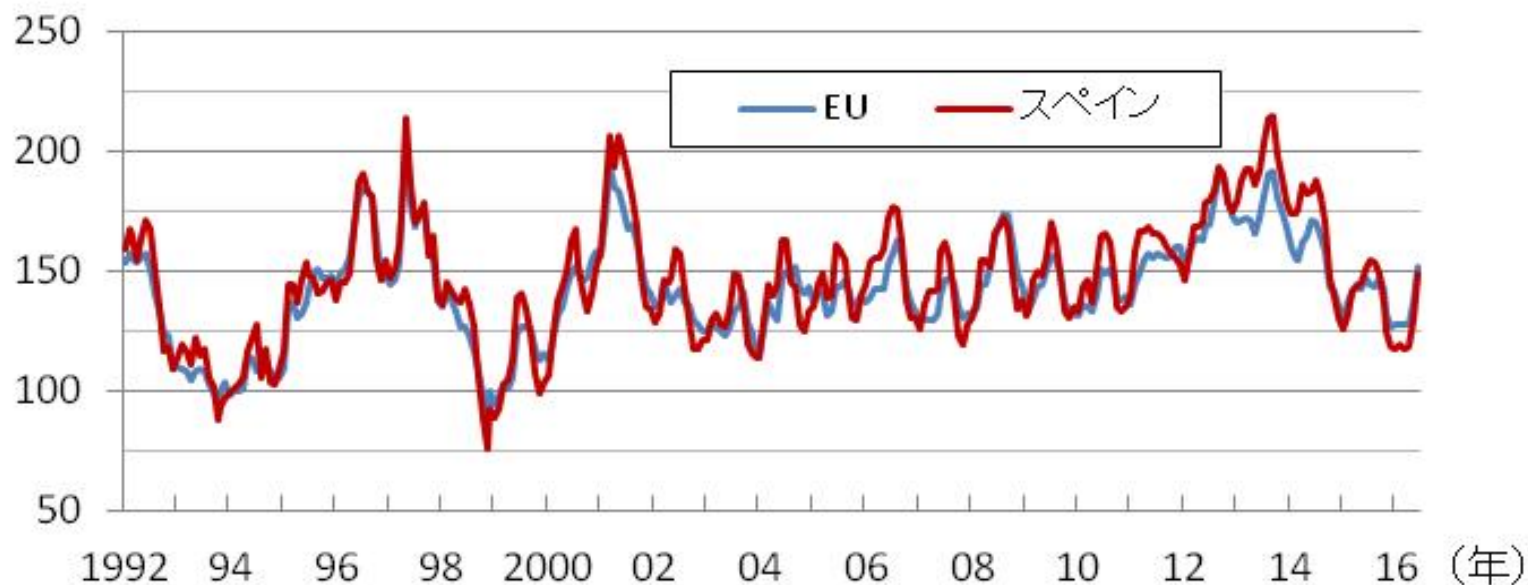
注1：減価償却費等には、支払利子・地代算入を含む。

注2：ブラジルのSCはサンタ・カタリーナ州、MTはマット・グロソ州。

注3：1ポンド=142円(2016年7月末日TTS相場:141.53円)を使用。

平均豚肉卸売価格の推移

(ユーロ/100キログラム)



資料: 欧州委員会



- 生ハム専門店（イトインコーナーが併設）
- 店名は「ハムの博物館」

- デパートでの生ハム（原木）の販売風景





[参考]

～子豚料理における品質認証制度の成功例～

- セゴビア（マドリッドから北西約90km）の名物は、コチニーシヨ（Cochinillo Asado）という子豚の丸焼き
 - セゴビアの名所が世界遺産登録され、観光客が増加。コチニーシヨを提供するレストランが増加したが、品質にばらつき
- ↓
- レストランオーナーが呼びかけ、2003年に品質認証制度をスタート（会員は、50戸の生産者の他、と畜場、流通業者、加工業者、食肉販売者、レストランの合計100者以上。運営は全て民間）
 - 認証の条件は、セゴビア産、指定農場で母乳のみで飼育、21日齢未満、規定重量以内など。認証マークは、子豚の足のタグと背の焼印
 - 現在、新規会員の制限や需給調整により、品質の確保を図り、有利販売を実践。知名度も向上

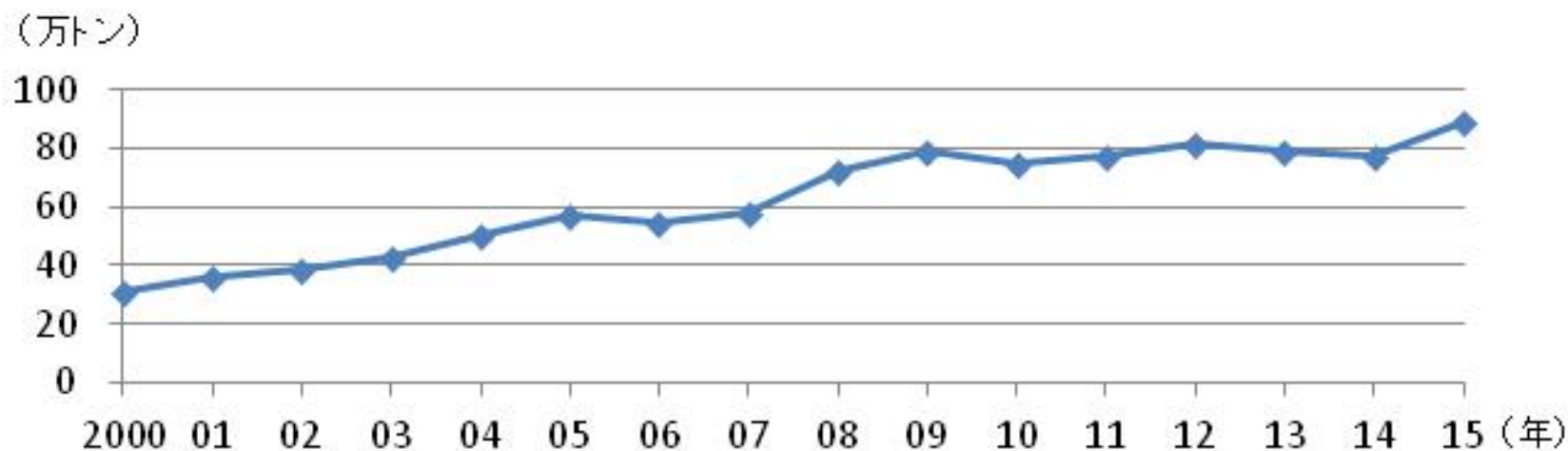
多くの関係者が連携して成し遂げた地域の取り組みの成功例

4 スペインの豚肉輸出の現状と今後



E U域内輸出量の推移

輸出量の約7割はE U域内向け



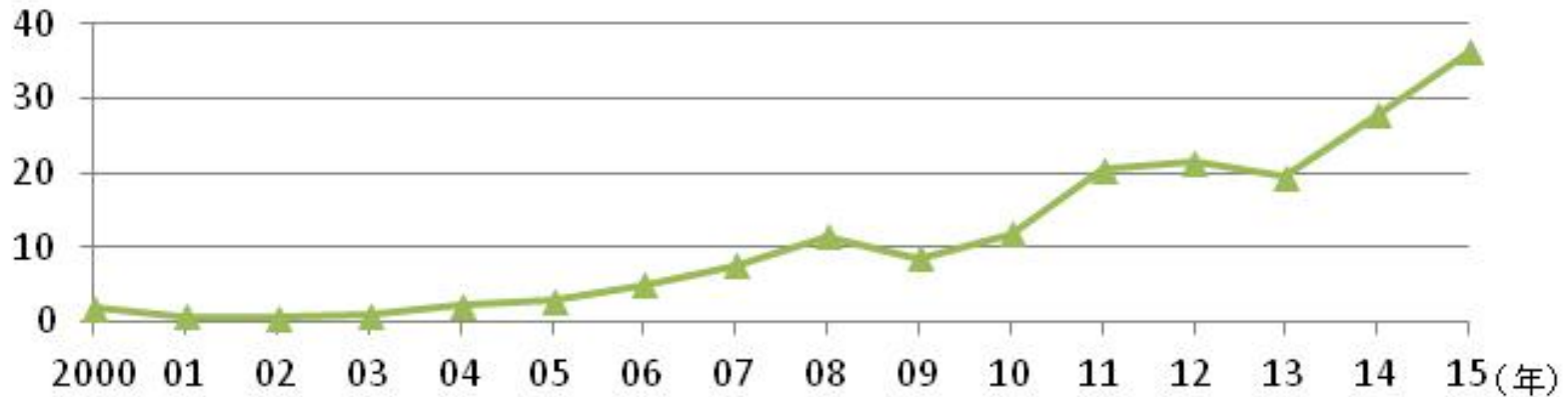
資料: 欧州委員会

EU域外輸出量の推移

近年大きな伸び

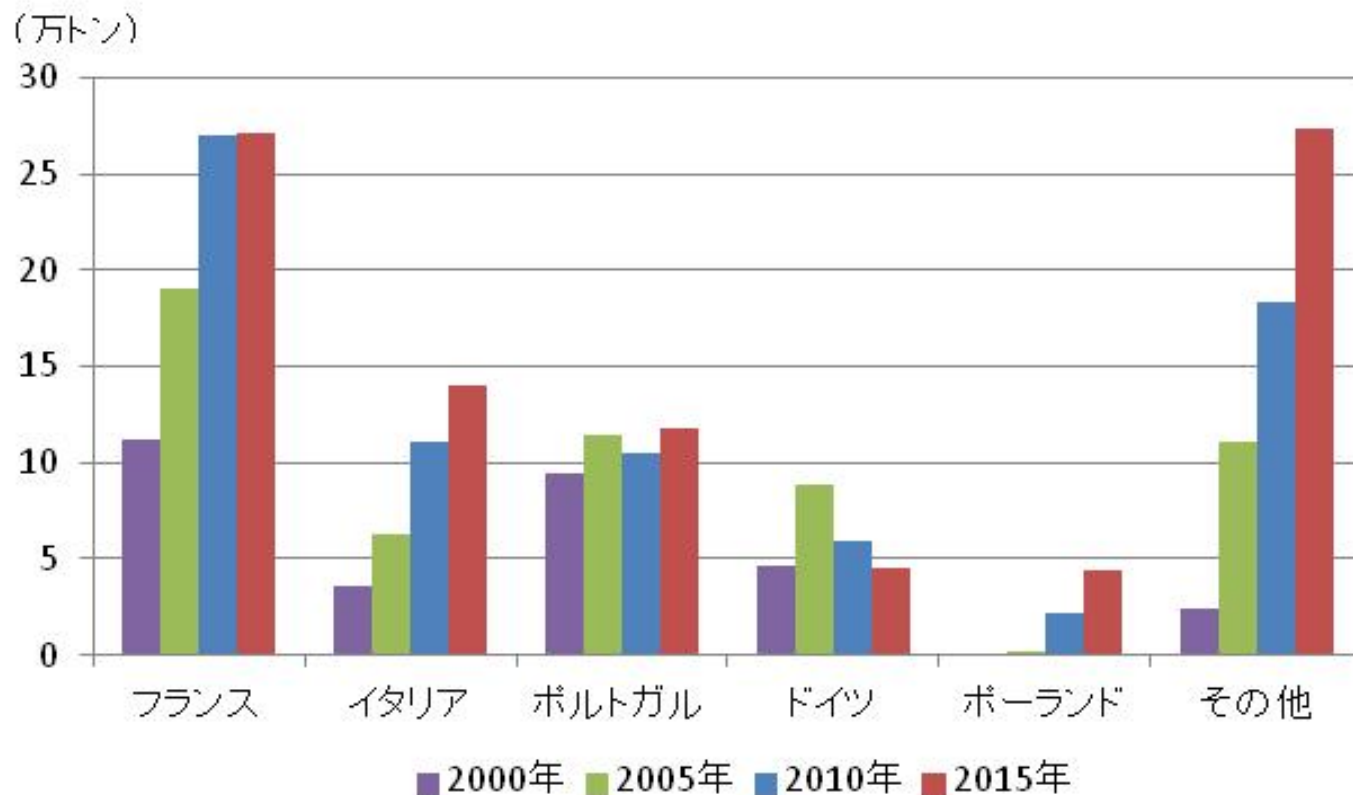
〔 2014年：前年比増加率43%
2015年：同30%

(万トン)



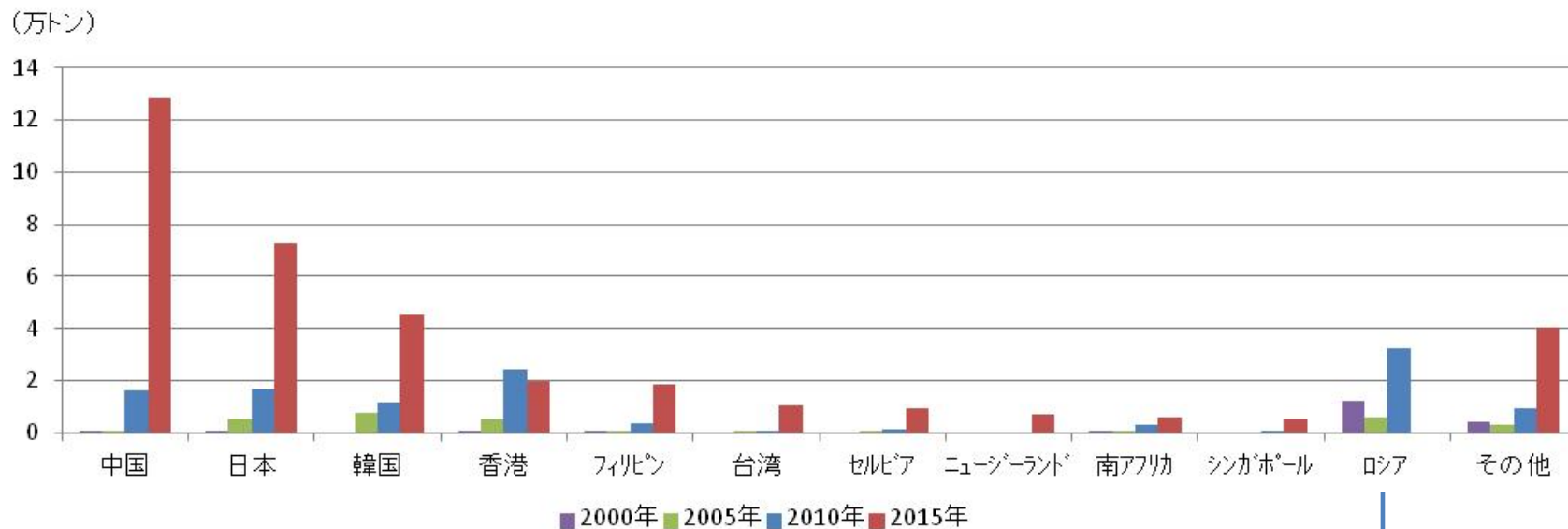
資料：欧州委員会

EU域内輸出先別輸出量の推移



資料: 欧州委員会

EU域外輸出先別輸出量の推移



資料:欧州委員会

・2014年1月からポーランドで発生したアフリカ豚コレラ（ASF）により禁輸措置を継続中

スペイン豚肉輸出の現状

- 大きな成長要因は「インテグレーションの進展」
- 効率化や生産性向上による豚肉生産量の拡大
- 需要者のニーズに合わせたカット対応

- 一方、生産増が輸出需要増を上回り供給過剰な面も
- また、EUでは最も低コストだが、米国、カナダ、ブラジルには及ばない
- 日本のユーザーからは、豚肉生産の急速な拡大で、品質のばらつきを指摘する声も

スペイン豚肉輸出の今後

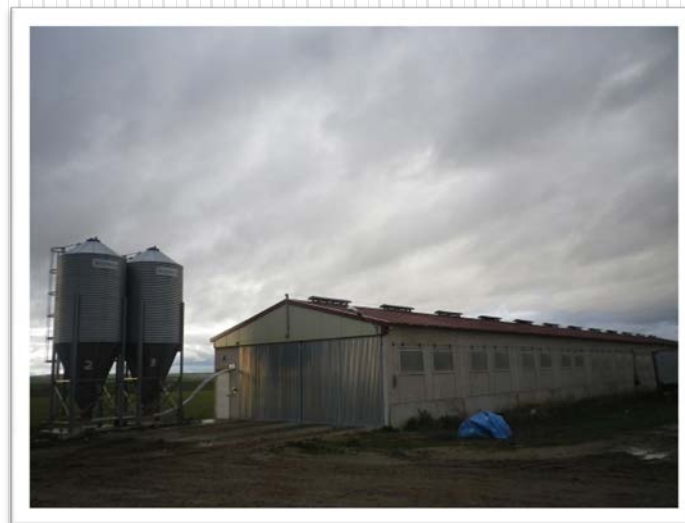
さらなる市場拡大が、同国の養豚産業の生き残る道

- ➡ インテグレーション強化による一層の低コスト化の推進
- ➡ 技術力向上による品質の向上

- 需要者のニーズに合わせた豚肉の供給
- 域内・域外合わせて103カ国に達した輸出先（2015年）
はスペイン養豚産業の強み

今後のスペイン養豚産業の拡大は他国に大きな影響

5 まとめ



(まとめ) 拡大するスペイン養豚産業の現状

- スペインの養豚産業はインテグレーションの進展により拡大
- 全世界、日本への輸出量も拡大
- 飼養頭数は2015年にドイツを抜いてEU最大に
- 価格競争力を有する低い生産コスト
- 一方、供給過剰、品質面など新たな課題も
- さらなる市場拡大のため、課題への対応が求められる

ご清聴ありがとうございました。

『畜産の情報』 2016年6月号に「拡大するスペイン養豚産業の現状」の全文も掲載しております。是非ご覧ください。（<http://www.alic.go.jp>）

※ メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「畜産の情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月2回（5日、25日）、最新の情報を配信しています。

配信を希望される方は、機構ホームページ（<http://www.alic.go.jp>）右の「メールマガジン」ボタンからご登録ください。

